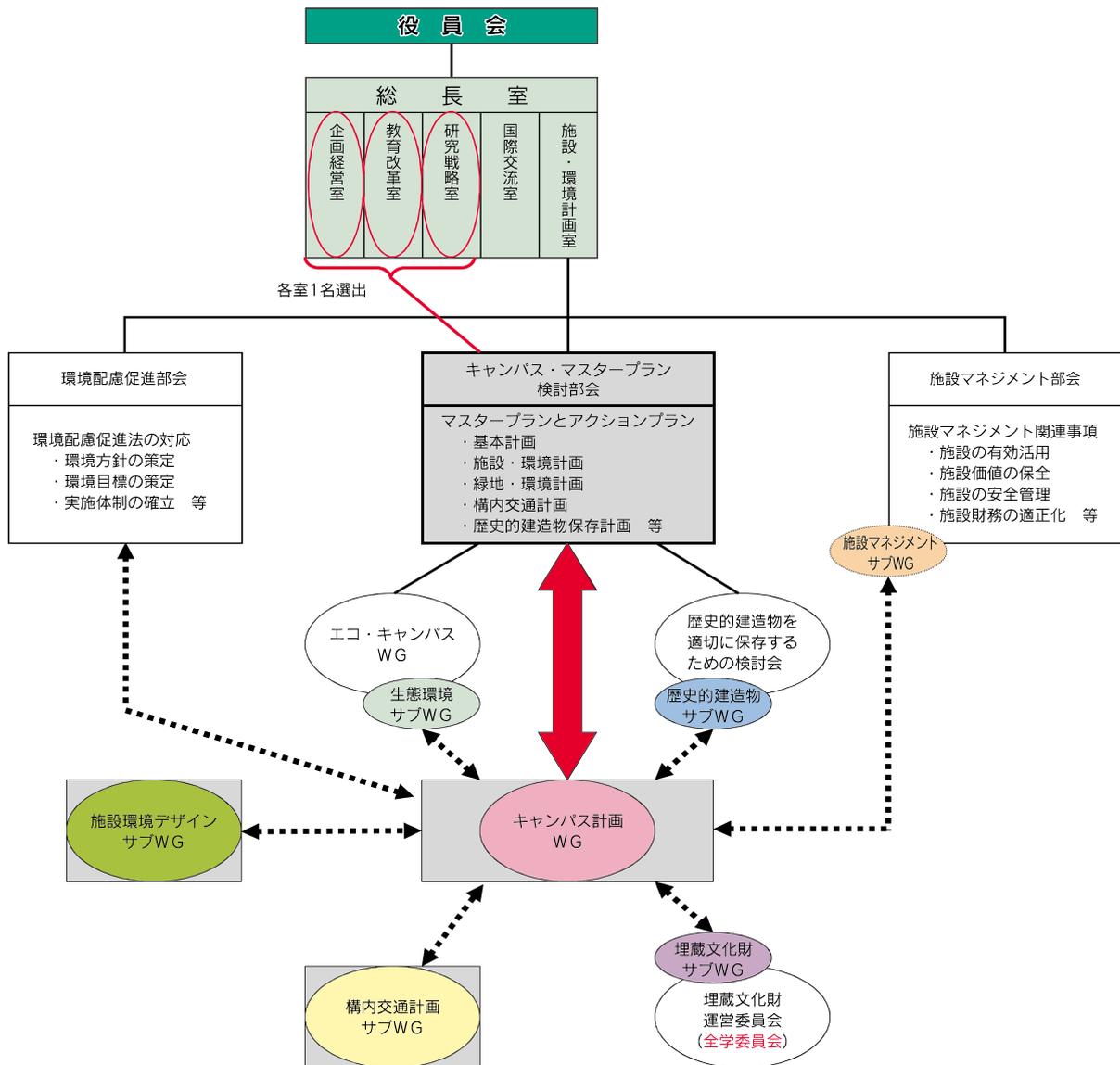


参 考 資 料

参考1 キャンパスマスタープラン2006 検討組織フロー図



参考2 キャンパスマスタープラン 2006 検討組織・構成員

●施設・環境計画室

(平成17年5月1日～)

◎ 岸 浪 建 史	理事 (副学長)	
遠 藤 啓	理事 (事務局長)	
小 林 英 嗣	役員補佐	工学研究科 教授
平 井 卓 郎	役員補佐	農学研究科 教授
澤 村 正 也	理学研究院	教授 (平成17年7月1日から)
吉 田 文 和	経済学研究科	教授
加 茂 直 樹	薬学研究科	教授
高 島 郁 夫	獣医学研究科	教授
鈴 木 範 男	北方生物圏 フィールド科学センター	センター長
太 丸 健 司	施設部	部長 (平成17年12月31日まで)
増 川 敬 祐	〃	〃 (平成18年1月1日から)
山 口 佳 三	オブザーバー	理学研究科 教授

(平成18年4月1日～)

◎ 岸 浪 建 史	理事 (副学長)	
遠 藤 啓	理事 (事務局長)	
小 林 英 嗣	役員補佐	工学研究科 教授
平 井 卓 郎	役員補佐	農学研究科 教授
澤 村 正 也	理学研究院	教授
平 本 健 太	経済学研究科	助教授
荒 磯 恒 久	創成科学共同研究機構	教授
笹 賀 一 郎	北方生物圏 フィールド科学センター	センター長
猪 上 徳 雄	水産科学研究院	教授
小 篠 隆 生	工学研究科	助教授 (平成18年11月1日から)
増 川 敬 祐	施設部	部長
繪 内 正 道	オブザーバー	工学研究科 教授

●キャンパス・マスタープラン見直し検討WG

(平成17年7月22日～平成18年1月22日)

◎は座長

◎ 小 林 英 嗣	工学研究科	教授
平 井 卓 郎	農学研究院	教授
笹 賀 一 郎	北方生物圏 フィールド科学センター	センター長
池 田 清 治	法学研究科	教授
小 篠 隆 生	工学研究科	助手
中 村 太 士	農学研究院	教授
鈴 木 範 男	地球環境科学研究院	教授
佐 藤 馨 一	公共政策学連携研究部	教授
下 澤 楯 夫	電子科学研究所	教授
太 丸 健 司	施設部	部長 (平成17年12月31日まで)
増 川 敬 祐	〃	〃 (平成18年1月1日から)
岸 浪 建 史	施設・環境計画室長	理事 (オブザーバー)

●キャンパス・マスタープラン検討部会

(平成18年2月2日～)

◎は座長

◎ 小 林 英 嗣	工学研究科	教授
平 井 卓 郎	農学研究院	教授
笹 賀 一 郎	北方生物圏 フィールド科学センター	センター長
池 田 清 治	法学研究科	教授
萩 原 亨	工学研究科	助教授
小 篠 隆 生	工学研究科	助手 (平成18年9月30日まで) 助教授 (平成18年10月1日から)
中 村 太 士	農学研究院	教授
鈴 木 範 男	地球環境科学研究院	教授 (平成18年3月31日まで)
佐 藤 馨 一	公共政策学連携研究部	教授
下 澤 楯 夫	電子科学研究所	教授
増 川 敬 祐	施設部	部長
岸 浪 建 史	施設・環境計画室長	理事 (オブザーバー)
(以下の委員は平成18年6月20日から)		
繪 内 正 道	工学研究科	教授 (企画経営室)
安 藤 厚	文学研究科	教授 (教育改革室)
稲 葉 睦	獣医学研究科	教授 (研究戦略室)

●キャンパス・マスタープランタスクフォースメンバー

(平成18年5月10日～)

○はWGリーダー

・キャンパス計画WG

- | | | |
|-------|-------|---------------------------------------|
| ○小林英嗣 | 工学研究科 | 教授 |
| 小篠隆生 | 工学研究科 | 助手(平成18年9月30日まで)
助教授(平成18年10月1日から) |
| 萩原亨 | 工学研究科 | 助教授 |
| 繪内正道 | 工学研究科 | 教授(企画経営室) |

・施設環境デザインサブWG

- | | | |
|-------|-------|---|
| ○小篠隆生 | 工学研究科 | 助手(平成18年9月30日まで)
助教授(平成18年10月1日から)
(WGリーダー 平成18年11月14日まで、その後WGメンバー) |
| ○小林英嗣 | 工学研究科 | 教授
(WGリーダー 平成18年11月15日から) |
| 高野伸栄 | 工学研究科 | 助教授 |
| 愛甲哲也 | 農学研究院 | 助手 |

・構内交通計画サブWG

- | | | |
|------|-------|-----|
| ○萩原亨 | 工学研究科 | 助教授 |
| 岸邦宏 | 工学研究科 | 助手 |
| 内田賢悦 | 工学研究科 | 助手 |

・生態環境サブWG

- | | | |
|-------|-------|----|
| ○近藤哲也 | 農学研究院 | 教授 |
| 高橋英樹 | 総合博物館 | 教授 |
| 愛甲哲也 | 農学研究院 | 助手 |

・歴史的建造物サブWG

- | | | |
|------|-------|-----|
| ○角幸博 | 工学研究科 | 教授 |
| 小澤丈夫 | 工学研究科 | 助教授 |
| 石本正明 | 工学研究科 | 助手 |

・埋蔵文化財サブWG

- | | | |
|------|-----------|--------------|
| ○小杉康 | 文学研究科 | 助教授 |
| 平川一臣 | 地球環境科学研究院 | 教授 |
| 小池孝良 | 農学研究院 | 教授 |
| 高倉純 | 文学研究科 | 助手(埋蔵文化財調査室) |

・施設マネジメントサブWG

- | | | |
|-------|-------|--------------------|
| ○小篠隆生 | 工学研究科 | 助教授(平成18年11月15日から) |
|-------|-------|--------------------|

参考3 キャンパスマスタープラン検討経緯

●キャンパス・マスタープラン見直し検討WG

第1回 平成17年 7月29日(金)

第2回 平成17年 8月25日(木)

第3回 平成17年 9月28日(水)

第4回 平成17年10月26日(水)

第5回 平成17年11月17日(木)

第6回 平成17年12月12日(月)

第7回 平成18年 1月23日(月)

(名称変更：キャンパス・マスタープラン検討部会)

●キャンパス・マスタープラン検討部会

平成17年度

第1回 平成18年 2月28日(火)

平成18年度

第1回 平成18年 5月10日(水)

第2回 平成18年 5月29日(月)

第3回 平成18年 6月20日(火)

第4回 平成18年 7月28日(金)

第5回 平成18年 8月25日(金)

第6回 平成18年 9月15日(金)

第7回 平成18年10月11日(水)

第8回 平成18年10月31日(火)

第9回 平成18年11月15日(水)

第10回 平成18年12月 6日(水)

第11回 平成18年12月25日(月)

第12回 平成19年 1月31日(水)

第13回 平成19年 2月28日(水)

平成 19 年

- 3 月 26 日(月) 役員会
キャンパスマスタープラン 2006 (以下 CMP 2006) (案) を原案として承認
- 4 月 17 日(火) 部局長等連絡会議
CMP 2006 (修正案) を提案
- 4 月 25 日(水) 全学説明会を開催
CMP 2006 (修正案) を説明
- 5 月 7 日(月) 各部局長等から CMP 2006 (修正案) について意見等取りまとめ
- 5 月 15 日(火) キャンパス・マスタープラン検討部会
各部局等からの意見等の回答(案) 及び CMP 2006 (修正案) の一部修正を承認
- 5 月 24 日(木) 施設・環境計画室会議
各部局等からの意見等の回答(案) 及び CMP 2006 (修正案) の一部修正を承認
- 6 月 7 日(木) 全学に部局等の意見に対する回答を公開
- 6 月 14 日(木) 部局等からの再意見取りまとめ
- 6 月 18 日(月) 全学に部局等の再意見に対する再回答を公開
- 6 月 20 日(水) 部局長等連絡会議
CMP 2006 (最終案) について再意見聴取、承認
- 7 月 9 日(月) 役員会
CMP 2006 (最終案) を承認

参考4 用語集

アカデミック・ゾーン 【academic zone】

北大キャンパスにおいて教育研究活動に適した、機能的でかつ人間的な環境をつくり出すために設定した、キャンパスの計画単位。ここでは、人間の歩行圏を単位としてアカデミック・ゾーンを設定している。

アカデミック・ツーリズム

講義とツアー形式の体験学習からなるプログラム。

キャンパスの自然、建築物などについてのプログラムが行なわれている。

アカデミック・プラン 【academic plan】

大学が持っている将来構想であり、特に今後の大学のあり方や教育研究に関する長期的な計画をアカデミック・プランと言う。キャンパスマスタープランにおいては、まず第一に計画されなければならない計画の根幹をなすものにあたる。

エコ・キャンパス 【eco-campus】

エコロジーとキャンパスを合わせた造語である。北大においては、特に、もともとキャンパスが持っている自然生態系を保全・再生し、教育研究活動と共生できるような環境をもったキャンパスを創出することをめざしている。そのようなキャンパスの状態を指す。

環境軸

自然環境の保全再生を主にしながら教育研究活動を支える施設群と自然生態系が共生し、調和することを目標に整備される重要な空間。

キャンパス・エコ・ミュージアム

そもそも「エコミュージアム」とは、エコロジーとミュージアムをつなぎ合わせた造語で、ある一定の地域において、住民の参加によって、その地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、総体として永続的な（持続可能な）方法で研究・保存・展示・活用していくという考え方、またその実践である。

「キャンパス・エコミュージアム」は、上記のエコミュージアムをキャンパスの中で実践しようという考え方である。

キャンパス軸

キャンパス全体の背骨となる軸的な空間。キャンパスの秩序と計画の方向性を定める上で最も重要な空間である。

研究ビレッジ

研究所・研究センターなどの研究施設に加え、地域共同利用施設や全学共同利用施設を計画的に集積させ、外部環境にも配慮した研究を主体とした

施設群を指す。

現代 GP 【Good Practice】

文部科学省が大学の優れた教育活動に対して財政支援する「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」で平成16年度から実施されている。支援期間は2～3年で1件につき1,600万円～2,400万円を上限に補助される。

コミュニティ・ゾーン 【community zone】

アカデミック・ゾーンを区分した単位であり、複数の学部部局の構想等を調整しながら、これを一つのまとまりとして、土地利用、建物配置、機能の構成、建物群の形態、密度、色調、外部空間などを計画する。キャンパスマスタープランを具体化する為の重要な単位である。

サードプレイス

生活上欠かせない居場所として、家（ファースト・プレイス）、職場・学校（セカンド・プレイス）があるが、それ以外の生活にゆとりや活気を生み出す憩いと交流が持てる場をサード・プレイスという。

サービス軸

キャンパス内の教育研究活動が機能的に、また安全に行われるように計画された、サービス車輛の交通動線。

シティ・ファーム

都市内に立地し、都市と共生する農場の意味。

ストリートファニチャー 【street furniture】

歩行者専用道路や商店街に置かれた、街灯、電話ボックス、ベンチ、日傘、灰皿などの付帯設備の総称。

ディスカバリー・トレイル

エコミュージアムを構成する要素の1つ。地域の紹介所の機能を果たす拠点施設「コア」と現地で保存された展示対象たる「サテライト」同士をつなぎ、地域の魅力を再発見されるための動線（＝展示空間でもある）を「ディスカバリー・トレイル」（＝発見の小径）という。

パラダイム転換

パラダイム転換＝パラダイム・シフト

ある時代や分野において規範的な物の見方や捉え方が時代的変遷につれて革命的・非連続的に変化すること。

ビジュアル・コリドール 【visual corridor】

外部空間の拡がりや奥行きを十分に確保した、あたかも廊下の様なオープンスペース。固有な空間の視覚的特徴の形成を確保するために、建物の配置、高さ、壁面線などを定める。

メカニカルウォール

空調・電気・通信などの設備系の配管、機器などを集中的に配置したスペース。

設備が集中しているため、メンテナンスが容易であると同時に、室内側への引き込みも容易にできるなどのメリットがある。

モール 【mall】

歩行者専用空間。もとは、緑の多い木陰の散歩道の意。自動車交通を分離し、歩行者の安全性と快適性を重視して植栽、舗装、ストリート・ファニチャーなどを注意深く設計した空間。

ユニバーシティ・センター 【university center】

最も大学らしい空間として、全学共用施設を中核として構成される拠点。建築とオープンスペースが関連を持ちながら整備され、キャンパス全体に対してアメニティと人々が集まり交流する空間を提供する。

ランドスケープ 【landscape】

一般には、人間が眺めたり、利用する風景や外部空間を指す。都市化された現代社会において、生態学手法を採り入れて快適な外部空間の構成を目指そうとしている。